

王滝村

議会だより



3 1 年 3 月 定 例 会 概 要	2P ~	3P
一 般 質 問 他	4P ~	6P
木曾広域連合議会定例会報告他	7P ~	8P

No. 1 4 4

31年度一般会計当初予算を可決 総額18億3,200万円

御嶽山安全対策関連に1億3,888万円

3月定例議会は3月8日に開会。2日目を26日に行い、平成31年度一般会計当初予算を含む議案全てを原案通り可決し閉会した。

2日目の一般質問には、胡桃澤氏、三浦征弘氏、吉田氏の3氏が登壇した。

<平成31年一般会計当初予算概要>

平成31年度の一般会計予算は、前年比8,800万円増の18億3千2百万円余となっている。

主な事業は以下のとおりとなっているが、歳出が歳入を上回る見積りとなっているため、財政調整基金から6,800万円余を繰り入れる予算となっている。

主な事業

◆御嶽山安全対策関連

王滝頂上山荘解体、トイレ修繕、避難シェルターの設置など 1億3,888万円

◆御嶽山噴火災害復興対策

県外向けプレミアム商品券の発行に1,120万5千円、御嶽山安全パトロール1,286万9千円など、総事業費3,762万3千円。

◆防災行政無線デジタル化整備事業

31年度は1億4,445万1千円、32年度は1億4401万2千円として2年間で整備。

◆地域おこし協力隊事業他

4,338万9千円で10名を予定、集落支援員事業は1,710万3千円で5名を予定。

◆村内向けプレミアム商品券事業

1万円券1,300セット、5千円券400セットを販売、1,864万円。

◆村史編纂事業

歴史編(下巻)を発行予定、1,879万2千円。

◆公営企業会計補助金

スキー場の指定管理料、圧雪車のリース料など6,995万5千円を補助金として支出。

《一般会計当初予算質疑》

問(胡桃澤) 来年度の地域おこし協力隊は10名の予定だが、予算書では既存の隊員が5名で新規の隊員が5名となっている。これで間違いはないか。

答(地域おこし推進課長) 今年度末では、既存隊員が4名、新規の採用予定が6名になる。

問(胡桃澤) ここまでの募集経過と応募状況についてはどうか。

答(地域おこし推進課長) 12月20日から1月31日まで1回目の募集を行なった。応募は1名で最終的に辞退されたため採用にはならなかった。2回目の募集を3月4日から22日までの期間で行っている。今のところ応募は0名である。

問(胡桃澤) 地域おこし協力隊の制度が出来てから、それなりの期間も経過し、様々な単位で協力隊のコミュニティが出来上がっている。そこで各地域の受け入れ態勢などについて、情報交換が行われているようだ。現状からみると、そこでの王滝村の評価が高いとは考えづらく、通常の募集だけでは、定員を満たすまでの応募は難しいと思うが、新規の隊員募集について何か考えはあるか。



7ヶ月ぶりに開通した村道第38号線

答（地域おこし推進課長） 専門学校などへ直接出向き、まだ就職の決まっていない生徒などに対しても説明を行っている。

問（胡桃澤） 現在は村が方向性を決めた形で協力隊の募集を行っている。村としても最終的には定住をしてもらえることが理想ではあると思うし、村としてもそのための支援を行なっているとは思いますが、そこへ至るまでの具体的な道が示されていない。そこに不安を感じて応募に踏み切れない人もいるのではないかと。3年の期間が終了した後の受け皿の用意については考えているか。

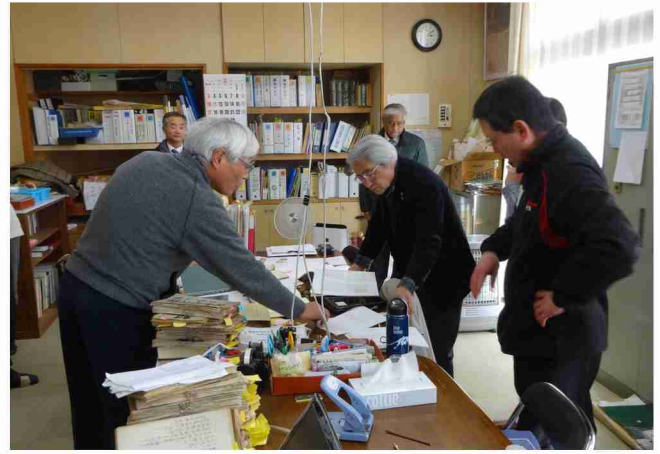
答（地域おこし推進課長） 協力企業を募集して、そこで技術等を学びながら、独立を目指してもいいし、企業にとっても人材の確保につながればと考えている。

まとめ 協力企業と言っても、村内では数が限られる。このまま予定通りの定員が集まらなければ、31年度の事業も予定通りには進まない。時期から考えても、現状はかなり厳しいと思うが、既存の隊員の関係からも情報を広げて、1名でも多くの応募があるよう努力してほしい。

問（胡桃澤） 平成25年12月からスタートした「ふるさと村民」の制度に、現在約360人の登録をいただいております、とてもありがたいことだと思っています。ただ、ホームページ上で規約に同意を求めておきながら、同意するためのボタンは存在しないし、そもそも「ふるさと村民」制度の趣旨や目的すらどこにも記載をしていない。これでは何のために「ふるさと村民」になるのかが全くわからない。早急な改善を求めるがいかがか。



各地のレースで活躍する大瀬和文協力隊員



村誌編纂室を視察(2月)

答（村おこし推進課長） 確認したが議員のおっしゃるとおりだった。出来るだけ早く対応する。

問（吉田） おんたけ銀河村キャンプ場の指定管理者は2社応募があったということであるが、選考基準は何か。

答（地域おこし推進課長） 2社からそれぞれ計画書を提出してもらい、その計画をもとに判断した。

問（吉田） 指定管理料はどうなるのか。

今回選考された指定管理者については、指定管理料は一切必要ないとのことで、そのことも判断基準となった。

問（吉田） 村長は村史編纂に政治生命をかけると言ったが、王滝の将来に向けて政治生命をかけるような取り組みは何かあるのか。今回の予算を見る限りそれは見受けられないが。

答（村長） 今後の厳しい財政状況の中、村内からの提案、提言を受け優先すべき事業に取り組んでいきたい。これまで、トップダウンではなく、村民からの意見を尊重しながら事業を進めてきた。

問（吉田） 財政状況が厳しいことは承知している。今後その少ない予算をどこに投入していくかということが重要だ。例えばスキー場への投資も現状のままでいいのか、あるいは縮小して、その予算を別の事業に投入するのか、そうした議論は今後極めて重要となる。ただ、最終的な判断をするのは村長であり、今後は、村のトップとしてもう少しリーダーシップを発揮して取り組んでいただきたい。

一般質問「そこが知りたい」

本文は答弁も含め質問者の執筆をもとにしています

観光振興の行方は

胡桃澤 公司

1. 観光振興の全体構想について

問 御嶽山復興を含む、村全体の観光振興についてうかがいたい。

今回の予算だけでは村の今後の方針が全く見えてこない。特に御嶽登山の今後については、ビジターセンターの建設も含め、いつ山頂までの登山が可能になるのか、その見通しすら示されていない。そのことに対する民間事業者の不安や不満は当然のことだと思う。観光振興において行政のリーダーシップは不可欠であり、それを受けて民間もそれらに同調した形での経営計画を立てることができる。例えば、「半年しか営業ができない田の原地区には今後は投資はせず、八海山地区に営業施設を集約する。」など。村として、現状をしっかりと踏まえた上で、今、今後の全体構想について示していただく必要があると強く感じている。当然のことながら、「第4次王滝村長期振興計画」の中に御嶽山の復興については記載がない。新しい振興計画が出来上がるまでの2年間という時間は、今の王滝村の観光にとってあまりにも長すぎる。現時点で不確定要素が多いことは、もちろん理解しているが、そのことが村の方針を示さない理由になるとも思えない。

可能な限り具体的な答弁を期待する。

答（総務課長） 村の規制緩和に向けた事業としては、30年度は9合目にパトロール隊の待機所を建設するなど登山者の安全確保をした上で、順次規制を緩和しており、現在9合目まで登山が可能となっている。計画では、平成31年秋口までに、王滝頂上までの緩和を目標とし、新年度予算に施設整備費を計上し1日目の議会審議で、ご議決をいただいた。その後の予定で、王滝頂上から剣が

峰までの規制緩和については、安全対策をした後、平成32年度以降の緩和を目指す計画としている。ただし、事業箇所が御嶽山山頂であり、天候等により工事の進捗が左右されやすく、計画通り施工できるかどうか、見通せない要素も含まれている。現時点での正確な規制緩和の期日を申し上げられないことに、ご理解を賜りたい。なお、今年度事業計画の周知については、4月発行予定の広報「王滝」で当初予算の概要と併せて住民へお知らせする予定である。また、ビジターセンター建設については、DMOで当初予定した平成30年度から平成33年度に先送りされているので、ご承知置き願いたい。

答（村おこし推進課長） 村では、住民から意見を聴取し多くの住民参加を得る中で王滝村総合戦略を策定している。その中で、新たな観光振興として、御岳山登山だけに頼らない・頼れない状況下で、アウトドアスポーツフィールドを目指してきている。御嶽山の安全対策が進む中、御岳山登山の再開を含め、観光振興策・復興策をどう図るかが、重要な課題であると認識しているが、この解決策や観光振興の全体構想は、王滝村総合戦略の策定時と同様に、村が示すものではなく、関係する事業者・住民等と連携し、村の財政の問題も考慮する中でより実効性のある戦略・構想をつくりあげるべきと考える。議員のご提案についてもその中で検討していただければと思う。



マウンテンバイクレース

国は、総合戦略の中で、自治体・事業者・住民などの多様な主体が連携し地域の特性を踏まえスピード感をもって課題解決に取り組むことのできる体制の構築を求めている。それに近い体制として、村には、村の事業者の殆どが加入する、一般社団法人 木曾おんたけ観光局「王滝観光総合事務所」が組織されているので、できれば、その中で話し合いを進め、戦略をねりあげていただき、村と共に課題解決に取り組んでいただければと思う。

問 今シーズンの田の原センターの営業はどうするのか。

答（総務課長補佐） 当初予算では電気代のみの計上なので、6月補正で追加の運営費を計上することになる。

問 6月補正で開山祭の準備が間に合うのか。

答（総務課長） 確かに順番では今年は王滝口での開催だが、木曾おんたけ観光局内でまだ、王滝口での開催とは決まっていない。

問 田の原までの道路はいくら修繕費がかかって、今後も維持をしていく方針か。

答 確かにここまでも、修繕を遅らせてきた経緯はあるが、可能な限り道路の維持はしていく。

まとめ 御嶽登山の今後の見通しについては、早い時期に事業者に対して、予定のスケジュールを明確に説明してもらいたい。また33年度建設予定のビジターセンターについても、その都度経過を全協において報告するようお願いをしておく。



満車状態のおんたけ2240スキー場(2/10)

八海山地区の展望

吉田 広史

1. 今後のスキー場営業方針と八海山エリアの活用について

問 財政シミュレーションでは、10年後には非常に厳しい状況となる。スキー人口が減少する中、今後おんたけ2240の入込が飛躍的に伸びるとは考えられない。指定管理者との合意も必要であるが、例えばゴンドラリフトの営業を休止するなどある程度規模を縮小して営業を続けるという選択肢も考えるべきであると思うがどうか。

答（村長） 村としても入込が飛躍的に伸びる可能性は低いと考えている。そんな中今後、維持、修繕に多額の費用がかかると思われるゴンドラリフトについては、指定管理者との協議の中で休止も含め運営規模を縮小することも考えている。

問 この10年で、修繕やメンテナンスなどゴンドラリフトに村が投入した総額はどのくらいか。

答（総務課長補佐） ゴンドラリフトは建設から30年が経過しており、多額の維持修繕がかかっている。この10年では、3回大規模修繕を行っており、1億4,360万円ほどかかっている。

問 各指定管理者が実施してきた小規模な修繕も含めれば、さらに多額の投資となっていると思われる。では、今後かかると思われるその資金を別の目的、例えばグリーンシーズンの合宿誘致に向けた八海山地区の整備に投入していくといったことはできないのか。

答（総務課長補佐） ゴンドラリフトの修繕計画では、今後5年概算で1億3,000万円程度かかる見込みである。現時点では八海山地区の施設整備に関しては白紙の状態となっているが、指定管理者からも経営の黒字化を目指すにあたって、標高をいかした高地トレーニングを実施していきたいとの提案も受けている。村としても観光振興を考えた上で今後検討していく。

問 今後は、現状の少ない予算をどこに投入していくかが極めて重要であると考え。このままではただ基金が減っていくばかりである。新たな可能性にかけても良いのではないか。

答（総務課長補佐） それについては、村としてもオールシーズンの施設の有効活用に向けて指定管理者との協議に入っていく。すぐにとということではないが、陸上競技に必要と思われる400メートルトラックについても、財源的なものも含めて検討していく。

問 高地トレーニングはあくまでも一つの案であるが、とにかく、少ない予算を有効活用できる方向で早急に検討していただきたい。

職員の給与

三浦 征弘

1. 職員の給与について

問 職員の給与が高すぎると思うがどうか。

答（村長） 何をもって高いと言うのか。

問 公民館長の報酬からである。王滝の公民館長が木曾町の館長と同じであるのはおかしい。他に低い町村もある。

答（村長） 公民館長だけではなく、他の根拠も示してほしい。

答（議長） そのとおりだ。三浦議員は他の理由を示すべきだ。

2. 八王子神社の倒木について

問 滝越の災害復旧が終わり、区ではこれが最初の仕事となるが、滝越区との話し合いは円満にできているのか。また、イノシシの掘った穴なども整地しなければならないが、これも円満にできているか。

答 円満に話し合いはできている。

<一般会計質疑の前に全員協議会を開く>

平成31年第1回3月定例会において、一般会計の質疑に入る前に全員協議会が開かれた。

平成31年度の予算案等については3月5日の全員協議会で説明を受けていたため、それに加えて本会議中に全員協議会が開かれることは前例がなく極めて異例といえる。

理由としては、教育委員会関連で、公民館長の人選とそれに関わる報酬額について議会内で疑問の声があり、場合によっては予算の減額修正を求める動議が提出される動きもあったため、議長の判断により開かれた。問題とされた点は以下の通り。

1. 30年度、編纂室長と公民館長の兼務者の報酬が約320万円だったところ、31年度は村史編纂室長と公民館長それぞれに266万円が支払われる。合計で200万円以上の予算増となるが、一般会計全体で予算縮減を図るとされている中で、その算出根拠も含めて疑問がある。

議会は教育委員会の人事についての議決権はないが、公民館長の人選について疑問視する声もあり、村史編纂においても専従となったところで3年遅れている村史の編纂が早まることのあるのか、といった質問がされた。また、2名の報酬が同額となっていることの根拠についても質問がされた。公民館長の報酬については、木曾郡の他町村と同程度にしたとの説明があり、資料が提出された。編纂室長については同額で了承してもらったとの説明があった。議会では今後の活動を注視していくこととして、とりあえず了承した。

《総務文教常任委員会委員長報告》

2月4日から5日にかけて、高知県大川村議会議員が来村、昨年10月に高知県大川村で意見交換会を行い、今回は王滝村で行った。

大川村議会側からは、議員のなり手不足を解消するために、地方自治法で定める議員の兼業制限の緩和を図るための、独自の条例の制定を検討していることなどの話をうかがった。

小さな自治体同士がつながることによって、現実に対応できなくなった制度の見直しの必要性を、全国に発信する一つの機会にしてゆきたい。

《スキー場特別委員会委員長報告》

2月14日～15日に、栄村のさかえ倶楽部スキー場と、野沢温泉村の野沢温泉スキー場の視察を行った。さかえ倶楽部スキー場では、年間6,000万～7,000万円の村からスキー場への繰入金、村の財政を圧迫していることなどについて意見交換をした。また、野沢温泉スキー場では、指定管理者の(株)野沢温泉社長と面談、大勢の外国人旅行者を引きつける野沢温泉村の魅力や、高齢化がすすみ人手不足が課題になっていること、最新型のゴンドラリフトの新設計画など、先進地の事例を学んだ。

平成30年度木曾広域連合議会 2月定例会報告

上程の議案は、条例の一部改正が4件、条例の廃止が1件、平成30年度補正予算に係る一般会計・特別会計の2会計、工事請負契約の変更が1件、平成31年度当初予算に係る一般会計・特別会計の2会計の10議案。

また、開会中・議会終了後に全員協議会が行われた。

議案第1号「火葬場の設置及び管理に関する条例の一部改正」について

・本年10月1日に予定される消費税率10%への引き上げを見込み、歳出経費に伴う収支バランスを図るため、使用料金を見直し、条例の一部改正をするもの。

議案第2号「木曾広域連合廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正」について

・議案第1号と同様の事由により、業務手数料を見直し、条例の一部改正をするもの。

議案第3号「木曾文化交園条例の一部改正」について

・同様の事由により、施設使用料の一部を見直し、条例の一部を改正するもの。

第4号議案「木曾地域高度情報化施設の設置及び管理運営に関する条例の一部改正」について

・同様に施設及び管理運営に伴う使用料などの一部を見直し、条例の一部を改正するもの。

議案第5号「木曾広域連合旧南部クリーンセンター可燃ごみ処理施設解体基金条例の廃止」について

・当核施設の解体工事が3月に完了することから、条例の定めが不要となるため、条例の廃止をするもの。

議案第6号「平成30年度木曾広域連合一般会計補正予算（第4号）」

・歳入歳出それぞれ62,036千円を減額し、予算総額をともに3,980,391千円とするもの。

主なものは、本年度着手の「ケーブルテレビネットワーク光化促進事業」（木曾地域高度情報化網光化促進事業）に伴う、単独事業分を次年度に繰越明許する予算計上のほか、事業の精算、人件費の精算などの補正減及び、緊急を用する経費について。

議案第7号「平成30年度木曾広域連合介護保険特別会計補正予算（第4号）」

・歳入歳出にそれぞれ7,094千円を追加し、予算総額をともに4,263,069千円にするもの。

主な内容は、業務の精算補正と国の交付金（保険者機能強化推進交付金）を受けての財源振替。

議案第8号「工事請負契約の変更」について

・「木曾地域高度情報化網光化促進事業」に伴う、工事請負契約の工期を変更するもの。

議案第9号「平成31年度木曾広域連合一般会計予算」

・新年度予算は、歳入歳出総額4,066,543千円。前年度比102.4%、額にして96,955千円の増額。

主に、2年目となる「ケーブルテレビ光化促進事業」を始め、木曾文化交園会館30周年記念事業や、今後、建設を計画する「木曾寮建設の基本計画」など必要施策の予算計上。

また、消費税率見直しに伴う収支経費の計上など。

議案第10号「平成31年度木曾広域連合介護保険特別会計予算」

・歳入歳出総額4,275,047千円。前年比104.8%、額にして197,125千円の増額。

増額の要因は、2年目となる「第7期介護保険事業計画」に基づくもの。

以上10議案を全て原案通り可決した。

（全員協議会）

1. 環境センター・し尿浄化槽収集の現状について
2. 平成31年度光化補助金について
3. 木曾寮建設検討委員会からの提言について
4. 木曾観光地域づくり戦略の報告について
5. 木曾広域連合財務諸表について



大川村議会との意見交換会（2月6日）

請願と陳情

3月定例会で審議された請願・陳情等の採択・不採択状況は下記のとおりです。

- 全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを国にもとめる意見書を提出す事を求める陳情（資料配布）
- 米軍基地負担に関する陳情（採 択）

王滝村人権擁護委員

王滝村人権擁護委員の任期満了に伴い胡桃澤 尚乃氏が選任された。

任期は平成31年7月1日から平成34年6月30日までの3年間。



王滝村選挙管理委員会委員及び同補充員は、平成31年5月31日で任期満了となるため、議長の指名推薦により承認され、次の方々を選任された。任期は平成31年6月1日から平成35年5月31日までの4年間。

選挙管理委員会委員

中越 好己・山本 國春・辻 貞夫
圃中 勝巳

補充員

滝 和人・南 直・田中 明弘
渡辺 時江



さかえ倶楽部スキー場の視察(2月14日)

議会日誌

- 12月**
 12日 議会12月定例会（閉会）
 13日 スキー場安全祈願祭
 26日 例月出納検査（11月分）
- 1月**
 12日 王滝村消防団出初式
 議会だより（143号）発行
 25日 木曾町商工会賀詞交歓会（木曾町）
 26日 水資源機構との懇親会（せおと）
 31日 全員協議会①
 例月出納検査（12月分）
- 2月**
 1日 王滝・加子母・付知線改良促進期成同盟会（中津川市）
 2日 氷雪の灯祭りin王滝
 4日～5日 大川議会一行来村、意見交換会
 14日 松塩筑木曾老人福祉施設組合議会2月定例会（塩尻市）
 14日～15日 さかえ倶楽部スキー場、野沢スキー場の視察研修
 16日 砂防懇談会（大桑村）
 21日 議会運営委員会①、総務文教常任委員会
 22日 長野県町村議会議長会定期総会（飯田市）
 26日 例月出納検査（1月分）
 27日 木曾広域連合議会2月定例会（木曾町）
- 3月**
 5日 全員協議会②（当初予算概要説明他）
 6日 J A王滝支所組合員総集会
 8日 議会3月定例会開会
 14日 議会運営委員会②
 15日 王滝小中学校卒業式
 26日 議会3月定例会 第2日目 閉会
 28日 例月出納検査（1月分）
 29日 平谷村議会との打合せ

《 編集後記 》

田の原からの御嶽登山は、今年の7月も9合目までしか登ることができない。ただし、今年の9月頃には王滝口頂上までの登山が可能になりそうだ。そして、その1年後にはいよいよ、田の原からも剣ヶ峰頂上までの登山が可能になる。もちろん、全てが順調にいけばということではあるが、それでも黒沢口より2シーズンも遅れることになる。多くの観光事業者が、来年の秋に希望を感じることができるよう、村の施策を強く期待したい。（公）